

令和4年度 一般廃棄物の排出状況について

1 家庭系ごみの収集量(実績値)の推移

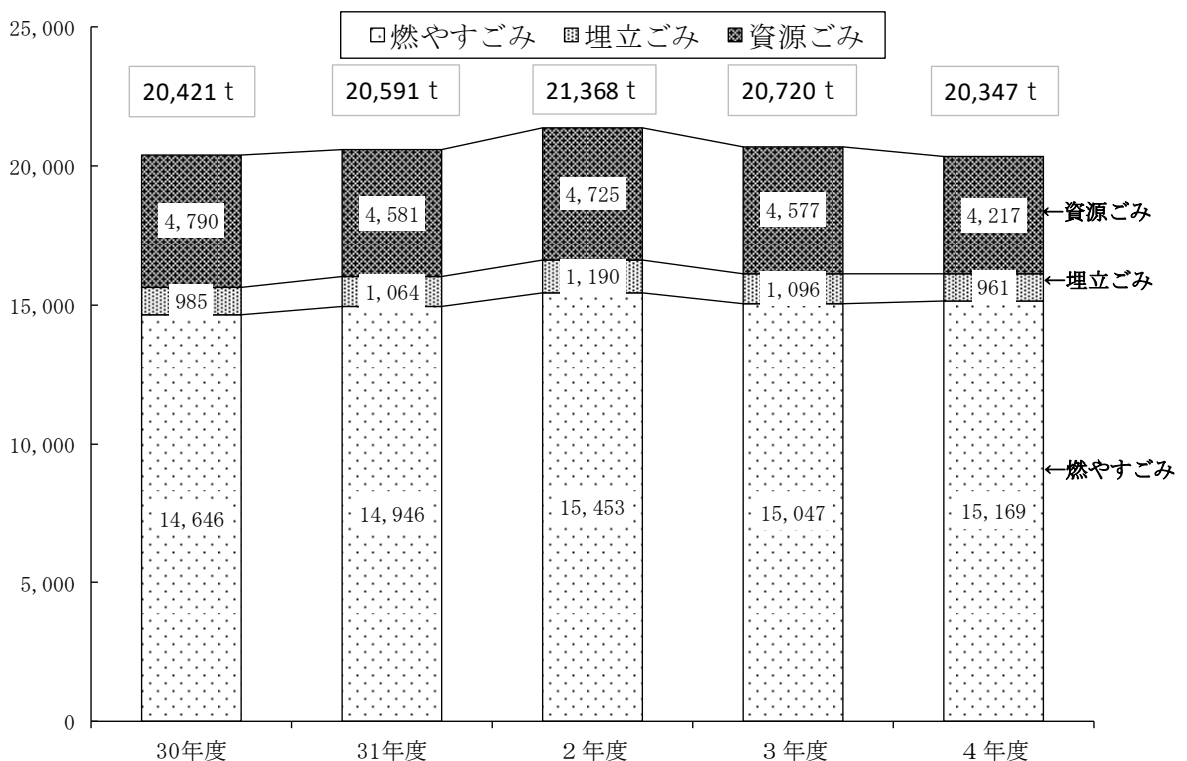
年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

項目		単位	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度	対前年度 比率 %	
人口(9月末時点住民基本台帳人口)*		人	101,819	100,791	99,701	98,588	97,480		
ごみの収集量(家庭系一般廃棄物)(C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	19,575	19,151	18,598	20,462	20,127	-	
	実績値	t/年	20,421	20,591	21,368	20,720	20,347	98.2	
処分ごみ(A)	実績値	t/年	15,631	16,010	16,643	16,143	16,130	99.9	
	計画値	t/年	13,396	13,157	12,883	14,394	14,187	-	
燃やすごみ	実績値	t/年	14,646	14,946	15,453	15,047	15,169	100.8	
	計画値	t/年	1,184	1,188	1,133	1,002	965	-	
埋立ごみ	実績値	t/年	985	1,064	1,190	1,096	961	87.7	
	うち火災ごみ	実績値	t/年	0	33	142	109	78	-
資源ごみ(B)	計画値	t/年	4,995	4,806	4,582	4,385	4,330	-	
	実績値	t/年	4,790	4,581	4,725	4,577	4,217	92.1	
紙資源	実績値	t/年	2,604	2,345	2,417	2,281	2,066	90.6	
金属資源	実績値	t/年	478	500	574	538	462	85.9	
ガラスびん	実績値	t/年	378	367	357	360	335	93.1	
ペットボトル	実績値	t/年	47	45	45	44	43	97.7	
プラ資源	実績値	t/年	1,260	1,290	1,305	1,315	1,282	97.5	
特定ごみ	実績値	t/年	23	34	24	36	24	66.7	
蛍光管	実績値	t/年	0	0	3	3	5	166.7	
再資源化率(B/C)	計画値	%	22.1	21.8	21.3	23.9	23.9	-	
	実績値	%	23.5	22.2	22.1	22.1	20.7	-	
一人当たりのごみの収集量(家庭系一般廃棄物)		実績値	kg/人・年	200.5	204.5	214.3	210.1	208.7	99.3
処分ごみ	実績値	kg/人・年	153.5	159.0	166.9	163.7	165.5	101.1	
	燃やすごみ	実績値	kg/人・年	143.8	148.4	155.0	152.6	155.6	102.0
埋立ごみ	実績値	kg/人・年	9.7	10.6	11.9	11.1	9.9	89.2	
	資源ごみ	実績値	kg/人・年	47.0	45.5	47.4	46.4	43.2	93.1

*住民基本台帳人口に外国人含む。

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成29年度~平成32年度期)(令和3年度~6年度期)による

年度別ごみ量の推移



2 分析

令和4年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は20,347トンで、前年度対比373トン、1.8パーセントの減少となりました。一方で、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（令和3年度～令和6年度）における計画値20,127トンに比べると220トン上回りました。

(1) 処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は16,130トンで、前年度対比13トン、0.1パーセントの僅かな減少となっています。燃やすごみは増加しましたが、埋立ごみが減少したことで処分ごみ全体としては減少しました。平成29年度以降は、処分ごみの燃やすごみは年々増加していましたが、令和2年度の新型コロナウイルス感染拡大による在宅時間の増加に伴う増加を経て、令和3年度には日常生活が感染拡大前の暮らしに近づいたことにより減少しました。令和4年度は、コロナ禍を乗り越え各個人や家庭での活動が活発になってきたことにより、再び増加したものと思われる。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は4,217トンで、前年度対比360トン、7.9パーセント減少しました。平成15年の8,733トンピークに毎年減り続け、令和2年度にわずかに増加しましたが、令和4年度は昨年度を上回る大きな減少となりました。

内訳では、金属資源が前年比14.1パーセントと最も減少が大きく、次は紙資源が9.4パーセント、ガラスびんが6.9パーセント、プラ資源が2.5パーセント、ペットボトルが2.3パーセントとほとんどの項目で減少しました。全般の傾向は、近年の市内大型店舗での店頭回収が市民生活に浸透していることやプラスチック資源循環促進法に代表される販売時の包装等の簡素化によるごみの減量など、市民の皆さんの3Rに対する意識の広がりが見えます。

(3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集総量で除した再資源化率は20.7パーセントと、前年度より減少しました。処分ごみがほぼ横ばいだったのに対して資源ごみが大幅に減少したことで再資源化率が下がりました。処分ごみに混入している資源化可能なものの更なる分別の徹底が必要です。

(4) 一人当たりのごみの収集量について

令和3年度と比較して1.4キログラム、率にして0.7パーセント減少しています。燃やすごみは僅かに増加、埋立ごみと資源ごみは減少しました。

3 課題と今後の取組

令和4年に行った燃やすごみの組成調査では、資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の混入が約10パーセントみられました。引き続き資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の分別排出の促進が課題です。令和5年度から製品プラスチックも資源化を行うことで、素材がプラスチックであれば「プラ資源」として排出が可能となり、分別がわかりやすくなることで混入の減少が期待されます。

「ごみリサイクルカレンダー」や「分別ガイドブック」といった既存の広報資材や、広報いいだの特集記事、映像媒体による資源化推進の啓発、スマートフォン等を媒体とした「ごみ分別アプリ」の活用、加えて各地区環境衛生担当委員会と協働して各地区におけるごみ分別学習会を開催するなど、多面的な啓発活動を継続して進めてまいります。

一方、表中には表れていませんが、燃やすごみの焼却処理の結果生じる「焼却灰」は年約2,000トンあり、その一部を令和元年度から市外搬出し再資源化処理をしています。令和4年度は約7割を再資源化処理しました。令和5年度から全量の再資源化処理を行い、更なる埋立ごみ量の減少に取り組みます。